

いつもお世話になっております。

今月分の請求書を送付いたしますので、何卒ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

こんなに寒い日が何週間も続いたのは人生で初めてのようです。とはいえ、立春をすぎ暦は春に向かっていきます。朝日は日増しに力強くなり、うれしい限りです。みなさまはいかがお過ごしでいらっしゃいますか。

久しぶりにプライベートで東京へ行く用事があり、時間があったので「古代アンデス文明展」を観に上野の国立科学博物館へ行ってきました。

上野といえば、今はパンダの「シャンシャン」に注目が集まっていますね。大勢の方が動物園の方に流れていくのを横目で見ながら、博物館へ行きました。

古代アンデス文明展のほうは、思ったより混雑していませんでしたが、見ごたえはたっぷりでした。

古代アンデス文明は、アンデス山脈一帯～太平洋沿岸で、紀元前13000年ころからスペイン人に征服される1532年までの長い歴史の中、広大な地域で、多種多様な文化が盛衰を繰り返してきたそうです。

南米の古代文明というと、マヤやマチュピチュやナスカの地上絵が有名です。私は今まで全部ごっちゃんに考えていました。ナスカの地上絵（紀元前200年～650年・太平洋沿岸部ペルー）と、マチュピチュ（15～16世紀：インカ帝国）はアンデス文明の異なる時代の遺跡ですが、マヤ文明は紀元前～16世紀ころの中米（メキシコ周辺）に栄えた文明で、場所が違うんですね。

室内は古い時代の文明から順にブースがわかれていて、人や動物をデフォルメしたかわいいものやおもしろいもの、黄金の装飾品などもあれば、不気味なものもあり、最後のブースには本物のミイラを展示していました。

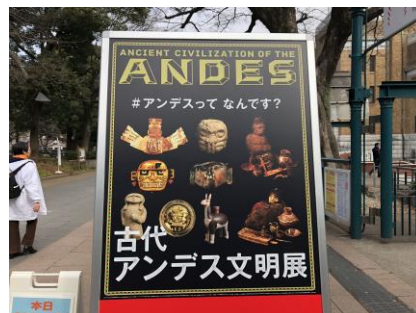
アンデス文明という生贄の文化が印象的ですが、自分の首を切っている人物の土器は強烈でした。私たちの感覚からすれば、野蛮で残酷で理解できないと思っています。アンデス山脈の厳しい気候風土で、災害や飢饉にみまわれた時、神の怒りを鎮め、喜ばせるために、最も貴重な物を捧げるという考え方がしょうが・・・複雑な気持ちです。

館内は全般的に撮影OKだったのですが、ミイラのブースは撮影NGでした。

この方（ミイラ）は、まさか何百年後の遠い異国で知らない人達に興味本位でジロジロ見られるとは想像もしなかっただろう・・・と思いが引けましたが、そうは言ってもミイラを間近で見れる機会などめったにないので、いろんな角度からじっくりながめました。この方にも家族がいて、生きていた年月があり、死後、大切に布にくるまれたことを空想するうちに、なぜだか清らかで神聖な気持ちになりました。

死後も別の世界で生命が続いていると考えられ、家の中でミイラと共に暮らし、食事を与えていた文明もあったようです。高野山で今も毎日、空海さんに食事を運んでいることを考えると、死生観が全く違うとも言い切れなかったと思います。とても興味深い展示でしたが、東京は2月18日まで。この後、全国を巡回するそうです。機会があればぜひご覧ください。

2月も下旬になり、とつぜん暖かい春の気温になる日があるそうです。気温差が激しくなりそうですが、風邪などひかれませぬよう、どうぞご自愛くださいませ。



ミイラを包んだ織物。宇宙人のような人型が細かく刺繍されています。



自身の首を切る人物の象形鏡型土器



かわいいリャマの土器